



会員卓話

ロータリー財団月間

「ロータリー財団について」

村上 有司 会員(PG)

- 1、ロータリークラブは、1905年2月23日、米国・シカゴのうす暗い事務所で、ポール・ハリスら4人が集い、「胸襟を開いて語り合える人生の友をつくろう」と話し合ったことからスタートしています。それから12年後の1917年、米国・ジョージア州アトランタで開かれた国際大会で、アーチC・クランプRI会長(当時)が、「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でよりよきことをするための基金をつくろう」と提案しましたが、当初は賛同者も少なく、寄付金はほとんど集まりませんでした。クランプ会長が任期を終え、慰労会が開かれましたが、会計清算をしたところ米貨26.50\$が残りしました。友人らは、クランプ会長の奮闘に敬意を表し、「残金をRIに寄付し、“ロータリー基金”をつくろう」と提案し、運動は細々とスタートしました。ところが、その後賛同者も多くなり、“ロータリー基金”は“ロータリー財団”と名称を変更して、1983年には米国・イリノイ州法により「非営利法人国際ロータリーのロータリー財団」として法人格を取得するまでになりました。わずかに米貨26.50\$でスタートした“ロータリー財団”ですが、95年後の2011年には純資産7億9500万\$と爆発的な発展をとげました。ロータリーの大躍進は、“ロータリー財団”の成長と共にあったといって過言ではありません。“ロータリー財団”の父アーチC・クランプは、ロータリーの創始者ポール・ハリスと同じ位大きな存在であったことが判ります。
- 2、ロータリー財団は、90年を超える歴史を刻み成長してきましたが、最近になって問題点が多く出てきました。そこで、ロータリー創立100周年を迎え、“未来の夢計画(Future Vision Plan)”として、“ロータリー財団”の大改革が始まっています。3年間の試験期間を経て、2013年7月からは、全ての地区で新制度が適用になります。未来の夢計画は、“新地区補助金”と“グローバル補助金(パッケージ・グラントを含む)”の二本柱から成り立っています。
- 3、“新地区補助金”は、肥大化する財団(本部)の事務手続を簡素化することを目的に、次の様なことを内容としています。
 - (1) 新地区補助金は、DDFの2分の1を限度とす

る。

- (2) 地区(又はクラブ)は、その年度中に実施したいと考える財団活動の一つに取りまとめ、財団に対し、使用計画と共に申請する。申請は、年1回限りである。
 - (3) 財団は、申請に対し、承認するか否かを判定し、承認した場合には、補助金を一括地区に交付する。
 - (4) 地区は、事前に“参加資格”の承認を受けた“地区財団委員会”をつくり、交付された補助金を管理し、その中から活動費を支払う。
 - (5) 地区は、財団に対し、1年間の活動状況を、決算書にまとめて提出する。
- 4、“グローバル補助金”は、大きな成果が期待出来る大規模で、国際的な活動を支援するもので、次の様な内容からなる。
- (1) 活動は、6つの重点分野(a. 平和と紛争予防／紛争解決, b. 疾病予防と治療, c. 水と衛生, d. 母子の健康, e. 基本的教育と識字率向上, f. 経済と地域社会の発展)のいずれかに関連すること。
 - (2) 2ヶ国以上の地区(又はクラブ)が、共同提唱して実施する国際的で、大規模な活動であること。一方を援助提供地区、他方を援助実施地区という。
 - (3) 援助提供地区と援助実施地区は、DDF又は現金を拠出し、財団(WF)からの上乗せ金を受領して補助金を調達する。その割合は、DDF:WF=1:1、現金:WF=2:1である。
 - (4) WFからの上乗せ額は、1プログラム当り15,000\$~200,000\$である。
 - (5) 地区は大規模で国際的なプログラムを計画し、財団本部に対し、各プログラム毎に“提案”と“申請”を行う。但し、1年間に申請出来るのは、10件以内とする。
 - (6) “パッケージ・グラント”は、グローバル補助金の一種である。ロータリーとロータリー外の協力組織(戦略的パートナー)との間で、実施される巨大プロジェクトを支援する補助金である。WFから200,000\$以上の補助金を支給する。現在“戦歴的パートナー”として、アガ・カーン大学、マーシーシプス、オイコレジット、ユネスコ水教育研究所がある。

